

「感謝を伝えることの大切さ」

住吉中学校 3 年 鎌賀 琉斗

みなさんは今、感謝を伝えたい人はいますか。僕には、どうしても感謝を伝えたい人がいます。それは、亡くなった祖父です。

僕の祖父は、洗濯物を干す時に服の間隔をきっちり同じ距離に揃えるなど、とても几帳面な性格でした。遊びに行くと、テレビを見ながら面白い豆知識を教えてくれたり、一緒に買い物に行って料理を作ってくれたりしました。特に、祖父が作ってくれたお味噌汁の味は、誰にもまねできないほど美味しかったのを覚えています。

そんな祖父がある日突然、倒れました。病院へかけつけましたが、祖父が再び目を覚ますことなく、その日のうちに帰らぬ人となりました。あまりに突然のことで、僕たちはパニックになり、いつも当たり前のようにそばにいた祖父がいなくなったことが、どうしても信じられませんでした。

葬儀に集まった親戚たちは、口々にこう言っていました。「また会えると思っていたから、感謝を伝えられなかった。」その言葉は、僕の心に深く突き刺さりました。僕自身も、もう二度と会えない祖父に、一度も「ありがとう」と言えていなかったからです。

この悔しさをきっかけに、僕は「感謝の気持ちは、伝えられるときに伝えよう」と強く心に決めるようになりました。

最近では、工事現場で働く人に挨拶をしたり、誰かに助けてもらった時に「ありがとう」と言ったり、道を譲ってくれたことにお辞儀をしたり、誰に対しても感謝を忘れないように生きています。正直、たまに面倒くさいなと感じてしまうこともあります。ですが、そんな時はいつも、祖父に感謝を伝えられなかったあの悔しい思い出を振り返り、自分を奮い立たせています。

僕は陸上部に所属しています。大会で走る前、選手は一礼をして「お願いします」と言い、走り終わった後には「ありがとうございました」と言います。

なぜ礼をするのか、その意味を考えてみました。それは、いつも走らせてくれるグラウンドや、応援してくれる人たちへの感謝の印なのだと思います。応援してくれる人や、指導してくれる先生がいることは、決して「当たり前」ではありません。

祖父は他界し、今ではもう会うことも、直接「ありがとう」と伝えることもできません。そのことは今でもとても悔しく、悲しいです。だからこそ、僕はこれからの人生の中で「伝えられる時に、その場ですぐに伝える」ことを大切にしていきたいです。

私たちの人生はたくさんの人に支えられています。感謝を忘れず、そして誰かから感謝されるような、温かい人生を送っていきたいです。